

# みどりの風

Noseiren Dayori Midori no Kaze

12月号 No.228

発行／熊本県農業者政治連盟

JA 熊本県会館内 熊本市南千反畑町2-3

電話 096-328-1284

編集責任者 木村 幸孝

発行／毎月1回 15日発行

平成9年7月4日第三種郵便物許可



満願寺温泉（南小国町：写真提供 熊本県）

元寇の役に際し、鎌倉幕府の北条氏が日本国を守るため、毘沙門天王を本尊として建立した寺院が満願寺であり、その周辺には、九州最古の庭園などがある。その近くを流れる志津川沿いに湯が湧き上がる。

## 主な内容

- ・WTO農業交渉
- ・生産部会長・中核農家代表等合同会議
- ・ガンバッテいます：木村智文さん、山口弘美さん
- ・各連合会からのお知らせ

や  
や  
ら  
さ  
い

「食が命」「決裂決行」等のむしろ旗が林立する、東京・日比谷野外音楽堂の会場は、十二月九日の寒い中、あつい熱気に包まれていた。

全国から結集した三千名の参加者は、WTO農業交渉が年内のモダリティー（保護削減の基準）合意の山場を迎え、安易な妥結は絶対に許さないと固い決意であつた。

現在、世界の人口は六十六億六千万人。この中でいわゆる飢餓人口といわれる人びとが、八億三千万人。そして、これらの人たちは大半が発展途上国に暮らしている。

更に、二〇五〇年には、世界の人口は九十五億八千万人と予測され、現在の世界の食料生産量では、到底まかないきれない。更に飢餓人口は増大し、多くの餓死者の発生が予想される。

現在のWTO農業交渉は自由貿易を進めることを目的に、食料輸出国の論理だけを押し付けようとすることに問題がある。

多くの飢餓人口を抱え、世界の食料が逼迫する中で、食料輸入国は、自国の食料自給率の向上に努めることが重要である。

現在、我国の食料自給率は四十%、穀物自給率にいたっては、わずか二十八%である。このため、日本国民の胃袋の大半は海外に委ねている極めて危険な状況にある。

今回のWTO農業交渉は、今月末の閣僚会議開催が不透明となってきたが、依然として予断を許さない状況にある。

この日の大会では、「最後まで断固たる取り組みを展開する。」との緊急動議を満場の拍手で採択した。

この後、参加者は霞ヶ関から永田町周辺のデモを行い、農業者の気持ちを訴え、通行中の都民から、大きな激励の拍手を受けていた。

今、日本の食料と農業を守るために、WTO農業交渉の安易な妥結を絶対に許しはならない。



## ■先般のWTO農業交渉についての報告会

JAGグループは、WTO農業交渉において、「悪い合意ならしないほうがいい」という決意のもと上限関税阻止、重要品目の十分な数の確保などを訴えてきた。

しかし、去る、7月29日、ジュネーブで開催されたWTO多角的貿易交渉の閣僚会合で、農業分野について、日本はきわめて厳しい状況にたたされた。

WTO農業交渉が始まって7年、各国の食料事情も大きく変化してきており、米国とインド、中国の対立が深まるなかで、7月の閣僚会合で最終的な交渉合意には至らず、結果的には、日本は不利な内容での妥結は回避できた。



▲辛島公園でWTOについて訴えるJA熊本中央会園田会長



◀WTO農業交渉経緯を全中富士常務が報告

# WTO農業交渉が重大な局面に

11月金融サミットを皮切りにWTO農業交渉が動きはじめた。

12月9日、WTO農業交渉では霞ヶ関、国会前をデモ行進（東京）▶



▲11月30日、WTO農業交渉に関して知事に協力要請

今後は、交渉再開までに食料安保の確立と自給率向上への強化に取り組みとともに、わが国農業を守るために外交戦略の練り直しを進めて行く必要がある旨報告がなされた。

## ■WTO農業交渉再開

11月15日、ワシントンで開いた緊急首脳会合（G20金融サミット）で、WTO多角的貿易交渉に対し、モダリティー（保護削減の基準）の年内合意に向けて努力することが明記された。また、11月22日からのアジア太平洋経済協力会議（APEC）の閣僚会議でも年内合意を促す宣言を採択。12月中旬にも閣僚会合の開催に動き出す機

運が高まっている。特に農業分野では食料輸出の攻勢が続いており、重要品目の十分な確保などをめざす日本は、今後厳しい状況にたたされること予想される。これを受けて本県では県知事・県議会関係者に協力を要請、12月1日、県下JA一斉に街宣活動を行うとともに中央会・連合会も辛島公園で集会、街宣活動でWTO農業交渉の現状、国内農産物の重要性など県民に理解と協力を訴えた。さらに12月9日には東京で3000人規模の緊急全国代表者集会を開き、日本農業が存立できる貿易ルールに向けた意思の再確認を行った。そして国や国会議員関係者への働きかけを強力に行うとともに霞ヶ関、国会前をデモ行進して、日本の主張を貫くよう訴えた。



▲12月5日、熊本県自民党県連・農政連は、自民党本部・園田政調会長代理他県選出の国会議員等を訪問。WTOについて協力要請を行った。

# 生産部会長・中核農家代表等合同会議を開催

9月26日、熊本市内のホテルで、県内50余名が参加して、「農政連生産部会長・中核農家代表・県青協専門部会長合同会議」を開催した。

全体会議でJA全中から「最近の農政をめぐる情勢について」の講演があった後、4分科会に分かれて、熱心な討議を行った。



▲講演を熱心に聞き入る参加者

安武副委員長の宣言で開催、ついで全中農業対策部の藤本氏が①20年産米への需給対策、②21年度以降の水田農業関連対策、③事故米の不正規流通、④生産資材高騰対策、⑤農地制度改革の5項目について、直近の情勢を交えて講演を行った。

その後、「水田営農」、「畜産・酪農」、「野菜」、「果樹・特産」の4分科会に分かれて各部会の現状と課題について熱心に討議がなされた。

その結果について各部会で取りまとめ、全体会議で発表、質疑応答を行い、合同会議を終了した。

また、この会議で取りまとめられた意見等については、先の平成21年度県農業政策・予算に関する要望書に盛り込むとともに、全中等へも取組みをお願いした。  
(各分科会で取りまとめられた意見等は次のとおり)

## 水田営農

### ①担い手対策の充実

・集落営農への支援の充実強化（経理・事務の支援、法人化への支援策、機械導入の支援など）

### ②生産調整の公平性確保

・正直者が馬鹿をみない政策の確立  
③わかり易い制度の確立と事務の簡素化  
・制度が複雑で解りづらく、農家の事務負担が増大している。

・農家が理解し易く、簡素な政策の確立  
・農家が意欲を持って取り組める政策の確立

### ④米消費拡大運動と地産地消への支援

・米飯給食の利用に対する働きかけを強化に行っていたいただきたい。（週3回を5回に）  
・公共施設や地場企業への働きかけもす

・すめてもらいたい。

### ⑤米消費拡大のため米粉の利用拡大を支援

### ⑥ミニマムアクセス米の見直し

・事故米では、米作農家は大きな打撃を受けている。米に対する安全・安心の対策を強化すること。

## 畜産・酪農

### （酪農）

①生乳の成分調整により四季を通じた飲用製品の開発を行い、若者をターゲットにした販売体制の確立を要望する。

②チーズ、生クリームなど発酵乳の供給拡大を進める十分な予算確保を要望す

る。

③加工原料乳については、生産者補給金単価と限度数量の決定を加工原料乳地域において決定できるように要望する

④酪農ヘルパーの推進対策の継続を要望する。

⑤県産販売に対する支援を要望する。

### （畜産）

①肉用牛収益低下緊急対策の現行60%補填を100%補填になるように要望する。

②肉用牛肥育安定対策事業（マルキン積立金）の地域基金残余の返礼（無事戻し）、交付金、飼料補填金など非課税となるよう要望する。

③家畜飼料特別資金、濃厚飼料の購入費貸付限度額の継続を要望する。

④子牛基金を四半期ではなく、BSEの時のように一ヶ月ごとに支出されるように要望する。

### （養豚）

①地域養豚振興特別対策事業について、補助対象期間を4月より適用されるように要望する。

②衛生費の支援助成を要望する。

### （繁殖）

①国産精液と受精卵の海外流失の防止対策を要望する。

②肉用牛の地域肉用牛振興対策事業の継続を要望する。

③現状の生産費に応じ、子牛補給金制度の保証基準価格の引き上げを要望する。



(全体)

①飼料用米の確保に努め、自給率40%をE C並みの80%にするように要望する。

野菜

①野菜価格安定制度の見直し

野菜価格安定制度の保証基準額については、設定基準が下がっており、再生産が可能となる算定方式を見直すよう



▲座長より全体会議で分科会の結果報告



▲全中藤本氏が最近の農政事情を説明

に求めていく必要がある。

②補助事業の継続と強化

ハウス施設の建替え、新築の場合のリース事業の補助では、産地が取り組み易い補助事業の継続を要請する。

高騰する肥料、燃油以外の資材(ピニール等)を補助対象にした生産対策を図る必要がある。

③国産野菜の消費拡大(PRR活動の強化)

安全・安心と合わせた国産野菜のPRと、消費拡大を図るための全国的なPR活動を要請する。

国の政府広報として、メディアを活用した国産野菜のPRを要請。

④消費税免税点の見直し

生産農家の消費税の免税額1,000万円を引き上げを要請

⑤原油高騰対策

原油高騰による農業生産コストが上昇し、農業経営を圧迫している。農家に対する原油高騰対策を県、国に早急に要求する必要がある。

⑥農薬(マイナー農薬)登録の拡大と迅速化

マイナー作物の農薬登録拡大、登録の迅速化について国に働きかける。登録への時間がかかりすぎているため現場対応が遅れており、規制緩和によるマイナー農薬の登録支援を図ること。

⑦農政運動に関する要請

この生産部会で取り纏めた内容を県、国へこのように要請し、反映している

か。要請活動の取り組みを検討して欲しい。野菜関係の要請活動が、他の部門に比べて弱いので、主要品目の経営状況など具体的な数字を示した要請活動を展開する。

野菜部門における全国組織はなく、政策要求が弱い状況にある。今後、全国組織を立ち上げ、政策要求ができる体制を組む必要がある。

果樹・特産

(果樹)

①需給調整の見直しを図ってもらい、価格低迷を招かないよう価格安定対策を充実させること。

②農業共済制度の改革(もしくは見直し)、所得が補償される制度への改善

果樹共済の基準金額が低下傾向にあるため改善策を講じること。

③施設園芸の補償制度、補償対象事業の改善。補填金の国・県の負担を増やしてもらいたい。

(特産)

ハウス事業の見直しを行うこと。

①「ひとみどり」の輸入差止めの申立てを引き続き継続して行うこと。税関に実効ある厳しい不正輸入防止対策の徹底を引き続き働きかけること。

②くまもと畜産の産地情報を直接消費者に知らせる支援対策を講じること。

③猪や猿などの害獣被害に対する支援対策を緊急に講じること。

④茶の防霜施設にかかる経費、資材及び省力化のための機械導入等について支援策を講じること



▲分科会では農業政策などを熱心に討議

⑤茶葉の販売やPR対策について支援すること。

(全体)

①後継者不足が大きな課題であるため、国を挙げての対策を緊急に講じること。

先に見える農業政策を作ってもらいたい。先に見える対策でなければ、後継者は育たない。

②ガソリンの暫定税率を無くしていいのではないか。

③農産物の輸出拡大を更に促進してもらいたい。

木村 智文さん  
JAかみましき管内



●長野県ハケ岳にて

山都町は、通潤橋、御所オートランド、特産品では、米、高原野菜などが有る。

木村さんは、昭和四五年十月生まれ。両親が農業をしているのを見て育ち、矢部高校を卒業、農業を継ぐべく自らの意志で、長野県ハケ岳の中央農業実践大学校に行き、葉物野菜（高原野菜）について学びました。ここは全寮制であり、寮長として寮生の面倒を見ながら、肥料、農薬などの知識の習得や、葉物野菜の種まきから収穫までの実習に汗を流しました。

現在は、両親とともにキャベツ15ha（山都町）、平田地2ha、しいたけ10万斤、水稲1.5ha、山林15haを栽培・管理しています。

●高原野菜の栽培

長野での経験を生かして、キャベツ栽培に取り組んでいます。キャベツは高温には弱い

が、低温には強く冷涼を好むことから、ここは最適なところとす。畑に石灰と堆肥をまき、六月から十一月まで収穫の切れ間がないように、収穫時期ごとの作付け面積を計算し、それに合わせて苗作りをします。夏には冠水、除草、追肥をしたりとたいへんですが、高原野菜として、JAを通じて九州、山口まで出荷しています。また、長崎ちゃんぽんやフタフ餃子の加工向けにも出荷するなど盛況です。

●キャベツ部会の副部長として

阿蘇外輪山の近くに位置することから、就農して2・3年頃、キャベツに火山灰が降って、被害を受けました。

また、最近はゲリラ豪雨が多く、せっかく撒いた種が、全部流されることがありました。このように自然災害が発生すると余分な手間、隙さらには減収に繋がることから、これらに対処する手立てをはじめ、地域に合った特色あるキャベツ栽培などに取り組んでいきたいと元気に話しています。

●青壮年部の活動で

青壮年部の矢部支部・副支部長として、農政活動や食育活動に頑張っています。特に、商工会と地域青年部との交流会を立ち上げて二年、地域の活性化をはかるために知恵を絞っています。「顧客から求められる農産物、農産加工品の開発と販路の拡大にも工夫を凝らして行きたい。さらには、後継者が減少している中で、若者がこの地で、ぜひ、農業をやりたいと思う魅力ある農業を目指したい。」

山口 弘美さん

JAくま相良支部フレッシュミズ



▲フレッシュミズ発表会「舞夢フォーラム」にて

山口さんは、人吉出身。結婚するまで看護師として働いていました。二十年前に、友人の紹介で現在のご主人と知り合い、結婚しました。

結婚を機に退職。その後、四人の子供に恵まれ、子育てしながらご両親と共に農業をしています。

●看護師から酪農家へ

山口さん宅では、両親とともに、米を七十五a、乳牛十五頭、育成牛十頭、そしてお茶を1.2ha作っています。

「結婚するまで農業のことは、何も知りませんでした。最初は農作業に合わせ、た生活リズムを作るのが大変でした。特に大変だったことは、サイロ内での飼料作りです。暑い建物内での作業なので汗だくで行います。」

毎日の農作業、そして子育てという仕事には、ご両親の助力が欠かせません。山口さんが朝早くから農作業を行う時は、お母さんが子供の朝食の世話をしていたそうです。

●フレッシュミズでの活動

山口さんが所属する相良支部フレッシュミズでは、現在8名の会員で活動をしています。

四〜五月に大まかな年間計画を立て、活動の情報をメールで共有し、出欠などの確認をしています。

今年はマイバッグ作り、焼肉のたれ作り、野菜の苗づくり、マイ箸入れ作り、エコバック作りを行いました。エコバックは、古新聞を利用したユニークな物。海外新聞で作られたバックもありました。また、十二月にはクリスマスケーキ作りにも挑戦したいと、意欲的でした。他にも、JAくまフレッシュミズ本部主催の活動に参加。地元農産物を使った料理実習、マイ箸入れ作り、藍染コースター作りを行いました。

●今後の期待と抱負

山口さんは、今後の抱負として、「身近な材料を使った、自然に優しい活動を目指しています。地元産の農産物を使った料理教室や、エコバック、マイ箸作りを通して、エコ活動を回りに広めたい」と話されました。



▶新聞で作るエコバックと



## 2008くまもと農業フェア & 米まつり

くまもと農業フェア実行委員会とくまもとの米まつり実行委員会は、くまもといすきっくまもと産くまもと農業愛くまもとをテーマに「2008くまもと農業フェア&米まつり」を11月15、16日の両日、合志市の県農業公園カントリーパークで開きました。

主催者として園田俊宏中央会長は「このイベントを通じ、自然の恵みや農業の大切さ、そして、人とのふれあいを実感して欲しい」と話しました。

会場では、県内JAや物産館、農産加工グループ111団体の旬の野菜や果物、特産品などを展示・即売。約30000人が来場し、くまもとの農産物や旬の味覚を味わいました。

各地のJA女性部で作る県内の農産物を使った地産地消「千人鍋」を1杯



▲長い列ができた地産地消「千人鍋」

100円で販売。両日も長い列ができ、販売開始から1時間足らずで完売しました。

また、今年も協同組合間提携として青森県が出席。特産のリンゴやナガイモ、ニンニクなどを販売。

メインステージでは、DOYO組のコンサートやチャリティー永谷&キャノンボールライブが行われました。

### 緒方壮洋さん（JA熊本うき）らが最優秀賞に

—熊本県青壮年部大会—

2008年度JA熊本県青壮年部大会が10月30日、八代市で開かれ、盟友ら約450人が参加し活動発表や盟友の主張、歌コンテスト等で舌戦を繰り広げました。

審査結果では、盟友の主張発表では最優秀賞に「夢の途中」を発表したJA熊本うき青壮年部の緒方壮洋さんが、組織活動実績ではJAやつしろ青壮年部の「八代から愛をこめて」給食に新メニュー「米粉パン導入への道」で発表した米田武生さんが優秀賞に。また、JA青年の歌「君と」コンテストではJA阿蘇青壮年部の岡田孝七さんが優秀賞に輝きました。

その他、各賞の優秀賞者は次の通り。  
▽盟友の主張 上村憲保（JA鹿本青年部）  
▽組織活動実績 三森伸治（JA阿蘇青壮年部）

## 熊本経済連肉畜枝肉共助会

経済連は11月3日から7日までの5日間、菊池市七城町の熊本畜産流通センター内で、第16回JA熊本経済連肉畜枝肉共助会を開きました。熊本県内の肉畜の肥育技術の向上と肉畜生産農家の経営安定がねらい。肉豚部門では上田國泰さん（JA鹿本）、肉牛部門では田中法義さん（JAあしきた）がグランドチャンピオンに選ばれました。

共助会には、県内JAから肉豚120頭（30セット）、肉牛119頭（乳用種15頭、交雑種35頭、褐毛和種10頭、黒毛和種59頭）を出品。審査講評は熊本県農林水産部畜産課の高野課長より「肉豚の部では、体重、均称、肉付き、肉質ともに優れたものが多く、出品者の日ごろの飼養管理技術と肉質改良に対する意気込みが強く感じられた。肉牛の部では、各品種の特徴を兼ね備えた枝肉成績となっており、特に黒毛和牛については、ばらつきが少なく、飼養管理や生産技術の向上が今回の結果となって現れたものだと考える。」と報告されました。

7日の表彰式の後に開かれたセリでは、グランドチャンピオン牛がキロ単価8,020円の高値で取引されました。

主な上位入賞者は次のとおり（肉牛

部門の名前の後は、等級・枝肉単価の順）

- ◇肉豚部門
- ▽金賞 上田國泰（JA鹿本）
- ◇肉牛部門
- ▽乳用種の部・金賞 坂田正邦（JA菊池） B-3-1、810円
- ▽交雑種の部・金賞 山田勝郎（同） B-4-3、320円
- ▽褐毛和種の部・金賞 麻井高治（JAかみまき） A-4-3、530円
- ▽黒毛和種の部・金賞 田中法義（JAあしきた） A-5-8、020円



▲熱心に枝肉を見る生産者や購買関係者

# JAバンク

## 5000人が熱戦!!

JAバンク熊本  
年金友の会

年金友の会がラウンドゴルフ大会

JAバンク熊本(JA・JA熊本信連・農林中央金庫)は11月13日、パークドーム熊本で第10回JAバンク熊本・年金友の会親善ラウンドゴルフ大会を開催し、県内各地区から年金友の会の会員約500人が参加しました。

開会式では、JA鹿本の谷口治敏選手が元氣いっぱい選手宣誓をされた後、競技が開始されました。本大会の参加者は、各地区での大変厳しい予選会を勝ち抜いてこられた強豪ばかりであり、熱戦が繰り広げられました。A・Bブロックに分かれて競技をし、下記の方が入賞しました。

表彰式を終えた後、JAあしきたの前田穂選手により、来年もまた元気で

(敬称略)

順位	Aブロック	
	氏名	JA名
1	山本 朗子	熊本 うき
2	下田 七郎	かみましき
3	小林 弘子	あまくさ
4	古谷 博信	熊本市
5	中村 実男	かみましき
6	平野 春光	熊本 うき
7	稲岡 義嗣	熊本 うき
8	渡辺 麗子	鹿本
9	邑田 照男	やつしろ
10	谷山 臨	くま



▼見事、入賞された方々。



▲元氣いっぱいのプレー!

再会することを誓い、力強い万歳三唱で締めくくっていただき、本年度の大会も大盛況の中、幕を閉じました。

(敬称略)

順位	Bブロック	
	氏名	JA名
1	楠田 一男	熊本 うき
2	成田 勝	熊本 うき
3	道木 フミ	あしきた
4	作取 和之	かみましき
5	竹下 清子	くま
6	岡本 幸人	熊本市
7	春口 豊熊	熊本市
8	鬼塚 昌久	あしきた
9	弓掛 英明	鹿本
10	栄 勝範	熊本市

# JA共済連

アンパンマンが山鹿にやって来た!

## 「JA共済 わくわくアンパンマンキャラバン」開催!

去る、11月23日(日)山鹿市のJA鹿本山鹿支所において、「JA共済 わくわくアンパンマンキャラバン」を開催しました。

この「アンパンマンキャラバン」は、ニューパートナーとのふれあい活動とJA共済加入者サービスを目的として、全国を巡回しながらイベントを行っており、県内で初めての実施となりました。

イベント当日は天候にも恵まれ、1日2回の公演に約1,200名の親子が参加し、アンパンマンをはじめとするキャラクター達によるショーを観覧しました。また、大きなアンパンマンとばいきんまんのボール運びゲームや、体操などで楽しみ、さらにお楽しみ抽選会では、アンパンマングッズや地元の特産品が当たるなど会場は来場者の歓声に包まれました。

ショー終了後には、アンパンマンたちの握手会もあり、握手した手をなかなか離さない子どもがいるほどの大盛況のキャラバンとなりました。  
JA共済では、このような「アンパンマンキャラバン」などのイベントを通して、今後も地域のみなさんとのつながりを大切にしていきます。



▲ボール運びゲーム



全体風景▶



# あじがわ

● 山茶花は、冬の色気のない景色のなかで可憐に咲き、ほのぼのとした暖かさを感じます。そのような存在に少しでも近づけたらと思います。



## 十二月に咲く花【山茶花】

サザンカの名は、ツバキの漢名の「山茶花」(サンサカ)が訛ったものです。花ひらがバラバラに散ることや、微かな香りがあることツバキと区別されます。江戸時代に九州を中心に、自生種からさまざまな品種が生まれ各地に伝承。現在、二百余りの園芸種があります。

肥後山茶花は、細川家八代・細川重賢(しげたか)が薬草園を作り、その庇護のもとに作出された肥後六花(椿、芍薬、花菖蒲、朝顔、菊、山茶花)の一つに数えられています。

(花ごとは) 困難に打勝つひたむきさ  
ツバキ科/常緑広葉樹/日本

● 盟友の皆様のご意見や 周辺地域の話 題、写真等、各地区の総支部・支部(JA本・支所)へお寄せいただければ幸いです。

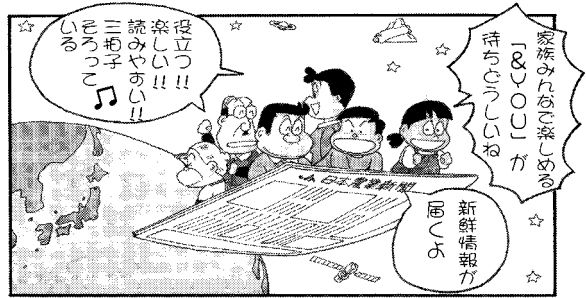
連絡先 熊本県農政連  
電話 096-328-11284  
FAX 096-326-5807

## 食と農 ひらく未来へ確かな目



「食と農のかけ橋」面を創設

食のニーズ、消費者の声を正しくとらえて産地へ価値ある情報を発信します。月曜日から金曜日まで終面カラーで届けます。



紙面を刷新▶情報を素早く分かりやすく

役立つ情報を毎日▶農産物市況予測を充実・農業の実用記事を満載・気象見通しを強化

JAグループ

## 日本農業新聞

購読のお申し込みはJAへ 定価1か月2,550円

JA熊本中央会

## JAバンク熊本



子育てを考えた家、JAバンクのローンで実現しました。

## JA住宅ローン

お気軽にご相談ください。お住まいの新築・購入・建替え・リフォームなど

## JA共済

老後を笑顔で満たすのは、「育てる年金」です。



豊かな老後のために、確かな生活資金の備えに、積み立て感覚で年金の準備を。JA共済のライフロードなら「予定利率の見直し」があるため、年金額が増える楽しみがあります。

※予定利率の推移によっては、年金額が増額されない場合があります。

豊かな老後の安心に、増える楽しみがついてくる。

予定利率変動型年金共済

## ライフロード

詳しくは、お近くのJA(農協)へお問い合わせください。

■ホームページアドレス <http://www.ja-kyosai.or.jp>

08481050135

第34回 熊本に春の訪れを告げる緑の祭典。

## 植木まつり

平成21年1月24日(土)▶2月23日(月)

午前9時~午後5時

熊本県農業公園

[カントリーパーク]



JA熊本経済連